

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100224		
法人名	大和ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 花うさぎ大橋		
所在地	〒815-0033 福岡県福岡市南大橋3丁目19番15号 Tel 092-511-1112		
自己評価作成日	平成31年03月04日	評価結果確定日	令和 元年05月08日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議で、町内や、校区から行事の参加とともに、準備のお手伝いなど依頼があれば、準備のお手伝いに出向き、地域との関わりをもっている。ユニフォームや一部の職員の顔も覚えて頂き、地域の方からも声をかけやすいと言ってくさるようになった。校区や隣接する中学校でも、高齢者用のテントを設けてくださるようにもなり、地域にも認められるように感じている。また、ご意見で、建物自体がどうい建物でどこから入ったらいいかもわかりづらいとあり、看板の設置を行った。アドバイスを活かした取り組みもできている。小学校からも、協力いただき、こども110番の家の登録もできている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel	093-582-0294
訪問調査日	平成31年04月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「花うさぎ大橋」は、地域に開かれた事業所として、5年前に開設された小規模多機能型居宅介護、住宅型有料老人ホーム併設のグループホームである。運営推進会議を通して得られた情報を基に、地域の行事や活動に準備段階から積極的に参加し、目の前にある中学校との交流、子ども110番の登録等、年々地域との関係を深めている。協力医療機関と看護師、介護職員の連携で、24時間安心の体制が整い、看取りの支援にも取り組んでいる。家族会を年2回開催し、利用者の写真入りの便りを配布し、丁寧な対応によって、「安心できる。感謝している。」と、家族と信頼関係を築いている。また、職員の処遇改善や働きやすい職場作りに取り組み、管理者を中心に風通しの良い職場で職員が定着し、活発に要望や提案を発信して、利用者の安心と尊厳のある暮らしの実現に向けて取り組んでいる、グループホーム「花うさぎ大橋」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営会議や運営推進会議などで、理念の再確認を行い、職員・共用部にも掲示し共有・実践に繋がっている。毎朝の朝礼時には、理念を唱和している。	地域密着型グループホームとしての理念を掲げ、地域との関わりを大切に家庭的な環境の中で、利用者の安心と尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。また、毎日の申し送り時に、理念と「職場の教養」を唱和し、理念の実践に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内からの声掛けで、校区の行事の準備の手伝いや、一斉清掃に参加し、交流の場が増え、ユニフォームで当事業所の職員であると、気づいて頂けるまでになっている。	近隣の中学校との交流を始め、校区の行事の準備や地域活動、「さんたっくお助け隊」に積極的に参加している。中学校の職場体験、看護科学生の実習、傾聴、演芸ボランティアの受け入れや見学会の開催等、積極的に交流し、認知症、グループホームの啓発に繋げ、地域からの信頼を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブの集まりなどに参加し、認知症を知って頂く説明をしたり、支援の方法や事業所でできる援助などの紹介もしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っている。地域の方の意見やアドバイスを頂き、実際に実践できた事例もあり、意見を活かすことができている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、地域から多くの参加を得ている。ホームの行事、行事予定等を報告し、参加委員から、質問や意見、情報提供を受けている。会議の中で、こども110番の登録や災害時の福祉避難所としての要請を受け、対応に向けて取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの担当の方に毎回、地域運営推進が意義に参加して頂き、サービスに対する情報を共有できるよう取り組んでいる。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員や南区の社会福祉協議会の参加があり、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受けて協力関係を築いている。管理者は、疑問点や困難事例について行政窓口にご相談し、空き状況や事故等の報告を行う等連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置、定例会議など行いながら、身体拘束をしないケアを継続できている。	身体拘束廃止委員会を設置し、研修を実施して禁止の対象となる具体的な行為について学び、再確認する機会を設け、職員間で情報を共有しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、家族会の中で、身体拘束廃止に向けたホームの取り組みについて説明を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令遵守に基づき、事業所内外の研修を行い、職員間で共有し防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度人権学習に参加し、実際に利用している方も安心して活用できるように支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、家族会の中で説明を行い、制度に関するパンフレットを配布し、周知に向けて取り組んでいる。制度についての研修に参加する事で学ぶ機会を設け、伝達研修で職員間の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う前には、必ず事業所の案内と説明を行い、理解を得て頂いたうえで、契約を結んでいる。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議や家族会などで、家族より出た意見はその場で良い意見やアドバイスを頂き運営に反映している。	家族の面会時や年2回の家族会等の機会に家族とコミュニケーションを図り、利用者の近況を報告し、親身になって家族の話を聴いている。利用者や家族の意見や要望を聴き取り、出来る事から速やかに、ホームの運営や介護サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や日常会話の中まで提案や要望が出た際は、聞き入れ、日常のサービスの向上であれば、反映している。	月1回、両ユニット合同で行う運営会議を開催し、その後ユニット毎にカンファレンスを実施している。意見や要望を出しやすい雰囲気の中、活発な意見交換が行われ、出された意見はホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間を通して、公休を増やし、また冬休みとして公休以外で一人3日間増やすことにより、働きやすい環境整備を行っている。また、勤務時間内に終わるように努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢等を理由に排除は行っていない。職員の性格や得意分野を発揮できるよう努めている。	職員の募集、採用については、年齢や性別、資格等の制限はしていない。職員の希望休の確保や冬休みとしての休日、有休の取得等、法人全体として職員の処遇改善に取り組んでいる。また、職員一人ひとりが目標を設定し、人事考課で評価を行う等、向上心を持って働ける職場環境を整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	機会があれば、研修に参加し、事業所内に持ち帰り職員間で再度、意識を高め啓発活動に取り組んでいる。	利用者の人権を守る介護の在り方を、内部研修や職員会議の中で話し合い、常に意識づけを行っている。また、理念の中に、「安心と尊厳のある生活を支援する」事を掲げ、利用者が家庭的な環境の中で、安心して暮らすことが出来るよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外での研修を受けれるよう勤めている。なるべく業務時間で外の研修を受けれるよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員全員に、外部の研修などで交流が深めるよう名刺を作成し、個々に活動できるように取り組んでいる。また、近隣の管理者同士のネットワークを作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が求めている事や不安なことを含め、安心できることに、気づき解決することで信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前より、事業所の案内や説明の中で、現在の状況を尋ね、困っている事や要望などを聴き、関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の際に、ご入居希望の方の心身の状況を探り、様々なサービスの説明を行い、適したサービスの案内をすることで、ご家族の視野が広がり、ご本人の適した利用のアドバイスになっている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常を共に過ごし、出来る限り有する力を活かし、洗濯物を干したり、たたんだり、食事の準備など一緒にやっている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況報告は、毎月写真入りのお便りを送り、毎月の生活をお知らせ、家族会や、秋祭り・餅つき等の催事を企画し、本人と家族の絆が維持できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の同意のもと、家族や親せき以外の方で馴染みの方との関係が継続できるよう支援に努めている。行きつけの場所も希望される際は、外出できる支援に努めている。	小学校からの友人や近所に住む知人等、馴染みの方の面会が多い。職員は来訪を歓迎し、ゆっくりと懐かしい時間を過ごしてもらえるよう配慮している。また、家族の協力で、馴染みの店での買い物や美容院に出かける等、関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で状況に応じ、行事や外出が一緒に参加されることで、より良い関係を築いて頂ける支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて不明な点や相談事で尋ねて来られても、いつでも対応し相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から出た言葉や思いを汲み上げ、意向に沿えるようにしている。困難な方は、ご家族にも協力を願ひ、嗜好品など尋ねている。	職員は、利用者と信頼関係を築く中で、利用者の希望や意向、心配事等を聴き出し、職員間で情報を共有して、利用者への介護サービスに反映させている。また、意向表出が困難な利用者については、家族に相談したり、職員が利用者に寄り添いながら、その表情や仕草から思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されてから、生活環境の変化が無いようにこれまでのサービスを継続・引き継ぎが出来るように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日の心身の状況や変化を見逃さず、記録や申し送りノートの活用で、職員が総合的に把握するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンス・モニタリングを行い確認できる方や家族に尋ねより良いケアが提供できるよう介護計画を作成している。	職員は、利用者、家族の意見や要望を聴き取り、毎月のカンファレンスやモニタリングの中で検討し、3ヶ月毎に利用者本位の介護計画を作成している。また、定期的に介護計画の実施状況を確認し、その結果を踏まえて介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別の取り組みでの気づきや発見があれば記録や申し送りノートに記入し、情報共有を行い変化や目標の達成があれば介護計画の見直しをしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の中で新たなニーズが生まれたら、既存のサービスに加え、解決できる道を探し、柔軟に支援が出来るように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各ボランティア団体を活用し、音楽合唱を行ったり、ネイルサロンできれいにしてもらい楽しめるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の契約は、本人と家族の意向に沿っている。かかりつけ医との連携をとり、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者や家族の希望を大切に主治医を決定し、馴染みのかかりつけ医の受診は家族の同行をお願いしている。ホームの協力医療機関による月2回の往診と緊急時の対応、看護師、介護職員との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良者、特変者がでた際は、連絡したり、相談したりと適切な判断が出来るように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、事業所での生活状況を伝えたり、入院中の情報を尋ねたりと情報共有に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、随時状態報告をしている為、早い段階から話し合いをしている。また、かかりつけ医とも連携をとり方針を共有し、チームケアで支援している。	重度化、終末期の方針については、契約時に利用者や家族に説明し、承諾を得ている。看取り支援に積極的に関わる主治医の協力を得て、管理者を中心に看取りの勉強会を行い、早い段階から家族と話し合う機会を設ける等、安心して利用者が終末期を迎えられる環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの取り扱いについて全体研修を行っている。また、初期対応についても各職員の経験を話し合いながら、意見交換を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップに基づき、マニュアルの作成を行った。地域運営推進会議でも、一時避難所として利用して頂けることも伝えている。それに基づいた避難訓練も行った。	年2回、昼夜想定で避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、避難場所、併設事業所職員との協力体制を確認し、職員一人ひとりが冷静に行動出来るよう真剣に行っている。また、水害に備え、上の階に移動して待機スペースを確保する訓練も行い非常食、飲料水も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話は基本的に、丁寧語で行っているようにしているが、傷つけないように配慮している。プライバシーの研修を行い、個人情報の管理、守秘義務を周知徹底している。	利用者の人権を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した介護サービスについては、接遇や身体拘束の研修の中で学ぶ機会を設けている。特に、言葉遣いや対応に気をつけ、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしている。また、個人情報の取り扱いについては、職員全員が周知している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で食べたいもの、飲みたいものがあれば早急に対応し、献立の変更も行っている。散歩、外出なども対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に合わせた日常を心掛けている。希望があればいつでも応じれる体勢を整えている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族とも相談しながら、その方の好みを尊重している。行きつけの美容室に行き、好みのヘアスタイルができるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけでなく調理、味見片づけ等を一緒にやっている。スタッフは同じテーブルで会話、介助をしながら楽しい時間になるように心がけている。	配食サービスを活用しているが、調味料を充実させて手を加えたり、定期的に配食を止めて職員手作りの食事を提供する等、少しでも家庭的な食事が提供できるよう工夫している。また、らっきょう漬けや生姜シロップ、おはぎを手作りする等、利用者の出来る事を活かした支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談しながら、個々に合った食事形態や量を確保し、バランスがとれるように提供している。主治医ナースにも報告や相談もしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度、歯科往診があり、口腔ケアやチェックを行っている。また、指導を受け、その方に合った口腔ケアを行い、可能な限りはご自分でご本人にして頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、失敗やパッドの汚染を軽減している。	重度化しても、日中はトイレでの排泄を基本とし、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、早めの声掛けや誘導を行い、失敗の少ない排泄の支援を行っている。また、小まめな声掛けと見守りにより布パンツに改善する等、利用者の自信回復に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活では、繊維物、乳製品などで予防している。適度な運動も働きかけている。毎日、排便有無の確認を行い、便秘気味の方の対応を考えている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	20時までは希望に応じ毎日入浴できる準備はしているが、現在、夕方以降は利用されていない。希望や、入れる時にタイミングよくできるよう支援している。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮し、週3回は入浴して貰えるよう支援に取り組み、菖蒲や柚子を浴槽に浮かべたり、入浴剤を入れる等、入浴を楽しめるよう支援している。拒否される利用者にも、時間をずらしたり人を替える等、無理強いせず柔軟に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調で入眠時間は異なるが、安眠できるように支援している。体交、ギャッツアップも必要な方には支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて、確認し理解や把握を行っている。症状日々の生活に合わせかかりつけ医、薬剤師と連携しながら調整している。変更時は家族に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を活かせるように役割を持ったリ、スタッフと一緒に買い物に出かける等気分転換ができるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には、スタッフが付き添い外出している。家族とも出かけられるように協力しあい、出かけられる支援に努めている。	利用者の心身の状態や希望に配慮しながら、気候の良い時期は出来るだけ戸外へ出かけるようにしている。外出レクとして、神社への初詣、季節毎の花見や菫狩り、山笠見学、地域の行事等に参加して楽しんでいる。また、家族の協力で、外食や買い物を楽しむ利用者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在個人での金銭の所持はされておらず、皆様定期的に外食ができる支援や、家族と外食する支援を行っている。家族が本人の好きなものを聞き、購入してこられている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望には、常時応じている。お孫様から手紙が届いたり、馴染みの方の電話も応じている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地が良くなるよう、外の天気に合わせて、照明の色や明るさを変え、室温調整も細目に行っている。	4階建ての建物の3、4階に位置し、木のぬくもりが感じられる内装で、ゆったりと落ち着いた癒しの空間である。季節感のある飾りつけをしたり、花を飾る等、家庭的で温かな雰囲気の世界作りを心掛け、職員の頑張り、室内は清掃が行き届き、清潔で明るく、居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々で席や、ソファなどの配置を変えたり、リビングでテレビを見られたりとそれぞれの時間が過ごせるように支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学や、入居の際には説明し、馴染みの物を持ってきて頂き、個性を活かせるようにしている。入居後も随時持って来て頂いている。	入居前に利用者や家族と話し合い、馴染みの家具や寝具、身の回りの物、大切な物等を家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。また、換気や清掃をこまめに行い、利用者が気持ちよく過ごせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から距離が離れすぎない程度にトイレがあり、歩行があまりよくない方でも、行きやすいような距離にトイレがある。		